

# 新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 249 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；  
—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 15 回  
日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド第 10 回(スライドX)

2018.1.17

話：三沢浩

■ 寺子屋 249 は 6 人の参加で開催されました。

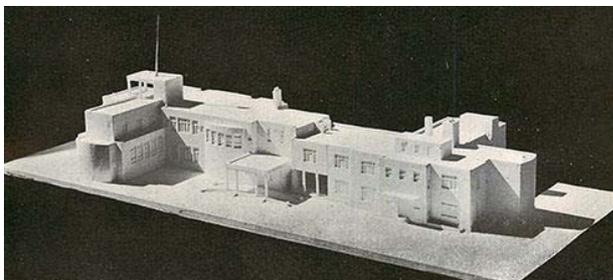
■ レーモンドが自身のモダニズムと日本の近代建築を模索しライトの影響からの離脱を大きな課題としていくなかで、オーギュスト・ペレが一つの指針になってきたことは、レーモンドの本棚にペレの作品集が置かれていたこと(前川國男の証言)からも想定されます。コンクリートという素材を、(ペレを越えて)レーモンドが如何に捉えてきたのか。その過程にも注目したいと思います。



東京女子大学 安井邸(現・安井記念館キリスト教センター)



ライジングサン・フラットアパート(現・フェリス女学院 10 号館)



ソビエト大使館

\*\*\*\*\*

新建・寺子屋(モダニズムの研究)249

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；  
2018年1月17日(水) 話：三沢浩

—藤森著『日本の近代建築(上、下)』の分析—第 15 回  
日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド 第 10 回  
(スライドX)

## 1. 前回のスライド区への補足

- 1) レーモンドのたどったモダニズム建築に不足
- 2) ライトの影響から逃れるための苦勞
- 3) ライト式の建築家の作品が足りなかった(菅原、岡見、下元)
- 4) 遠藤新、田上義也に傾き、「ツルピカ」との対比が不明

## 2. 今回のスライドXのポイント列記

- 1) 再び「靈南坂の自邸」の細部と「デ・ステイル」の影響
  - 2) 女子大の安井邸は「デ・ステイル」の図面がない(外観のみ)
  - 3) なぜ、オーギュスト・ペレ風がレーモンドに入ってきたのか
  - 4) コルビュジエの先取りの「夏の家」以前にコル風はなぜ
- ## 3. オランダのデ・ステイル派はどこから、また細部は
- 1) ライトの『作品集(1910)』のどこが「デ・ステイル」?
  - 2) 同じオランダのデュドックやベルラーへのライト風とは
  - 3) 「デ・ステイル」以外にライトの影響はなかったか?
- ## 4. レーモンドの許にチェコからのフォイアシュタイン(在日1926~30)が

- 1) ベドジフ・フォイアシュタインはペレの許から東京へ来た
  - 2) 4年後「聖路加病院」のデザインで反逆し、レーモンドが誠首に
  - 3) 土浦亀城との交流、杉山正則の好意で出版を
- ## 5. フォイアシュタインの残したモダニズムとは
- 1) ソビエト大使館はロシア構成主義
  - 2) 今も残る社宅、ライジングサン・フラットアパート(女子タピスト用のアパート)(横浜山手)
  - 3) 現在はフェリス女学院10号館で三菱地所が修復

\*\*\*\*\*

次回 <寺子屋 250> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読  
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第 16 回 話：三沢浩

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド 第 11 回

2018年2月21日(第3水曜日定例) PM 7:15~

場所:新宿区水道町2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費:400円 問合:大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com